



まちの話題



10 FRI 会場もあつたか 令和4年度四国中央市あつたか家族賞 表彰

家事や育児などを家族で協力したり、ボランティア活動などで地域に貢献していたりする家族を表彰する「四国中央市あつたか家族賞」。4回目となる今年度は、15家族が選ばれました。表彰式では、各家族のあつたかなエピソードを紹介。出席した家族に篠原市長から賞状と記念品が渡されると、少し照れたようにお互いの顔を見ていました。

また、記念イベントで行われた、川之江高校書道部による「家族」をテーマにした書道パフォーマンスや三島高校生徒らによるフラダンスチーム「ハーラウ・フラ・オ・ホクラニ」の南国の音楽と踊りが、会場にいた家族や観客をあつたかな気持ちにさせてくれました。

子どもたちを社会につなげるために— 「子どもの夢叶えますプロジェクト」が協力依頼

市内の小中学生から集まった約600件の夢を叶えるため、協力者を募りながらさまざまな活動をしている「子どもの夢叶えますプロジェクト」。

この日、同プロジェクトの代表を務める村上智子さん（豊岡町長田）が篠原市長を表彰訪問し、これまでの活動内容を報告。「集まった夢の中には、自分たちの力だけでは、どうすることもできないものもあります。子どもたちが抱いている夢を、行政のバックアップも受けながら叶えていきたい」と、プロジェクトへの協力を依頼しました。

124 TUE 表敬訪問



2 4 SAT

はじける我らの『書道愛』 第19回四国中央市児童・生徒書道展覧会 開催

国内シェアの6割以上を占める日本一の「書道用紙」のまち四国中央市で、芸術書道という文化を次世代につないでいくため、県書道用紙連合会が毎年開催している本展覧会。19回目を数える今回は、市内の小中学校から343作品が展示されました。

展覧会は、県紙産業技術センター（2月4日～26日）から始まり、土居窓口センター（2月27日～3月12日）、市役所市民交流棟1階（3月13日～26日）、川之江ふれあい交流センター（3月27日～4月9日）で開催されています。



2 1
WED
表敬訪問

NAMYさん（本市在住） パラリンアート世界大会 2022「東海理化賞」受賞

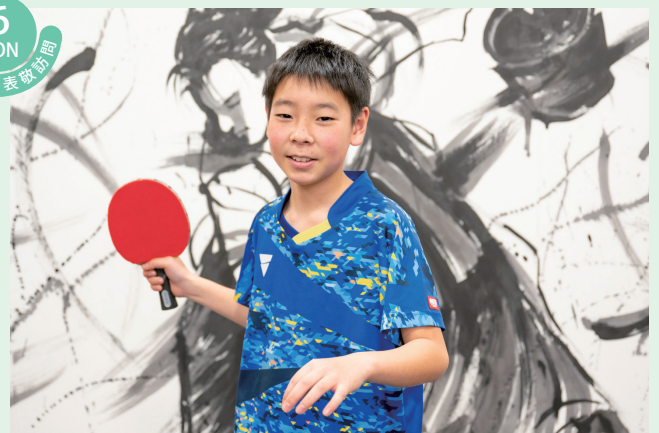
障がい者アートのワールドカップと言われる本大会で、NAMYさんが受賞するのは今回で3回目。「未来」がテーマの今大会には、世界25か国から498点が応募。受賞した作品「みんなが輝く未来」についてNAMYさんは「動物も人間も植物も皆が共存し輝ける、そんな明るい未来であってほしいという願いを込めました」と話しました。

受賞の報告を受けた篠原市長は「これからも自分の好きな絵を描いてください。それがみなさんに勇気を与えます」と話しました。

マーカーや色鉛筆、水彩絵の具を使い鮮やかに未来を描いた

つばさ 荒木陽翔さん（三島小学校5年） 第20回全国ホープス選抜卓球大会 出場

2 6
MON
表敬訪問



小学生以下の選手による都道府県対抗の卓球大会、全国ホープス選抜卓球大会。1月21日に松山市総合コミュニケーションセンター体育館で行われた、愛媛県代表選考会小学5年生男子シングルスで、三島小学校5年の荒木陽翔さん（三島ウイングス所属）が、決勝リーグを全勝で制し見事優勝。県代表チーム入りを果たしました。

全国大会は、3月25日と26日の2日間、鹿児島市の西原商会アリーナで開催されます。

1 16
MON



相談・啓発・救済 市人権擁護委員協議会 活動報告

人権擁護委員協議会（鈴木孝子会長）では、市民の人権を守るために、また人権の考えを広めるために、人権相談活動や人権侵犯に関する調査・救済活動、講演会などによる啓発活動を行っています。

この日、篠原市長へ1年間の活動報告をした鈴木会長は「SKK（相談・啓発・救済）を三本柱として、何ができるか模索しながら引き続き頑張っていきたい」と話しました。

1 16
MON



紙のまちの子どもたちに本を 宇摩法人会青年部会が 市内4図書館に図書を寄贈

「地域の文化振興に貢献したい」と、公益社団法人宇摩法人会青年部会（毛利治正部会長）から市内の4図書館に、児童書や絵本など図書116冊が寄贈されました。

今回の寄贈は、同会の設立40周年を記念したもので、毛利部会長から目録を受け取った篠原市長は「市民に愛される図書館になれるように、大切にに使わせていただきます」と感謝を伝えました。

1 16
MON



安心して学校生活を (株)ダイナム愛媛四国中央店が 衛生用品を寄贈

「市内の児童・生徒が、コロナ禍でも安心して学校生活を送れるように」と、株式会社ダイナム愛媛四国中央店（妻鳥町・坪田和也ストアマネジャー）から市内小中学校に、光触媒スプレーやアルコールタオル、ペーパータオルが寄贈されました。

今回の寄贈は、同社による地域社会への貢献活動の一環で、贈られた衛生用品も同社が市内製紙会社から購入したものです。

本紙上で紹介できなかった記事や写真は、市ホームページ「まちの話題」に掲載しています



NEXT ! SHIKOKUCHUO 本市が全国で初めて「ロイロ認定自治体」に

全国220万人の教職員と児童・生徒が利用している教育支援ソフト「ロイロノート・スクール」。本市でも新たな学びのツールとして、令和3年度から活用しています。加えて、教職員の活用スキルの上と効果的な授業を行うために「授業デザイナー・トレーナー」や「認定ティーチャー」の資格取得に努めてきました。現在では、全国最多となる117名が資格を持つっています。

このような本市の取り組みが株式会社ロイロから評価され、この度全国で初めて「ロイロ認定自治体」になりました。

NEXT ! SHIKOKUCHUO 第18回四国中央市首都圏交流会 開催

首都圏で活躍する本市由来の企業が交流を深め、情報共有や販路開拓、業務提携など、新たなビジネスチャンスの創出を目指し設立された本交流会。都市センターホテル（東京都千代田区）で行われた今回の交流会には、会員企業19社が出席し、交流を深めました。

今回の交流会では、「コロナ禍で行われた東京オリンピック・パラリンピックを振り返って」と題し、大会組織委員会会長を務められた橋本聖子参議院議員に、コロナ対策、共生社会の実現、ジェンダーバランスなどについて、ご講演いただきました。

2 9
THU



篠原市長から贈られた水引のピンバッジを持つ橋本議員

市長の

ひとりごと

大変ありがとうございました

法皇山脈の西の峰に残雪が寒そうに残っている。

かつて、年があけて葉タバコの温床をつくる寝床に敷く枯れ落ち葉を取りに親父さんと山へ登ったことがあった。最初は、好奇心もあり元氣一杯であったが、冷たさが痛みで代わり、涙がぼろぼろ出てきた。3時間くらいの間であったが、長兄がタオルを首に巻いてくれた。何も知らないで付いてきた末っ子が可哀そうになったのだろう。もうみんななこちらにはいない。西の山の雪を見れば、重なるてくる心の情景である。

年度の終盤がきている。それぞれの人生の大半を公務員として奉職し、がんばってくれたみなさんに感謝である。人生そのものが



法皇山脈西側の山々（土居町天満から撮影）

一遍の小説であり、これからも続編が書けるように様々なことに挑戦してほしいと思います。

私も、肩に背負った仕事が行間をあげられるようがんばります。今後ともよろしくお願いいたします。

お世話になりました。
ご苦労様でした。



四国中央市長
篠原 実